

JUKI

Catty.Ex

キャディーEX
HZL-65

取扱説明書



! 注意


安全にご使用していただくため、ご使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように、この取扱説明書を保管してください。











お買い上げいただきましてまことにありがとうございます。

このミシンは直線ぬいを始めとしてホームソーイングに適した数々の模様ぬいが内蔵されています。正しくミシンをご使用していただくためにどうぞこの「取扱説明書」をよくお読みいただきホームソーイングのパートナーとして末長くご愛用してください。

安全にご使用いただくために

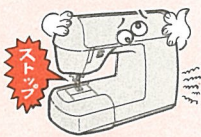
このミシンを安全にご使用していただくために、下記のことからは必ずお守りください。このミシンは日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY

 この表示は禁止のマークです。

<p> 警告 このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。</p> <p>1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。</p> <p>2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・ミシンのそばを離れるとき・ミシンをご使用になったあと・ミシンのご使用中に停電したとき 	<p>2. ミシンを操作するときはカマ部などカバー類を開けてください。</p>  <p>3. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車(プリー)、天びんなど、すべての動いている部分に手を近すけないでください。</p>  <p>4. 針折れの原因になるような曲った針はご使用にならないでください。</p>  <p>5. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引っ張ったり押したりしないでください。</p>  <p>6. お子様はミシンをご使用になるときや、お子様の近くでのご使用される場合は、特に安全にご注意ください。</p> 	<p>7. 下記のことを行うときは電源スイッチを切ってください。</p>  <ul style="list-style-type: none">・針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。・下糸、上糸をセットするとき。・ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください)・取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。 <p>8. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。</p> <p>9. ミシンをご使用中、下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検修理、調整をお受けください。</p> <ul style="list-style-type: none">・正常に作動しないとき。・落下などにより破損したとき。・水に濡れたとき。・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。・異常な臭い、音がするとき。
<p> 注意 このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。</p> <p>1. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。</p> 		

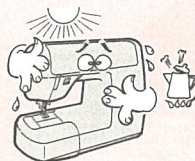
その他のご注意

長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、ミシンが止るようになっています。



その場合、速みやかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。

直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



シンナーなどの溶剤で拭かないでください。



柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、良く拭き取ってください。

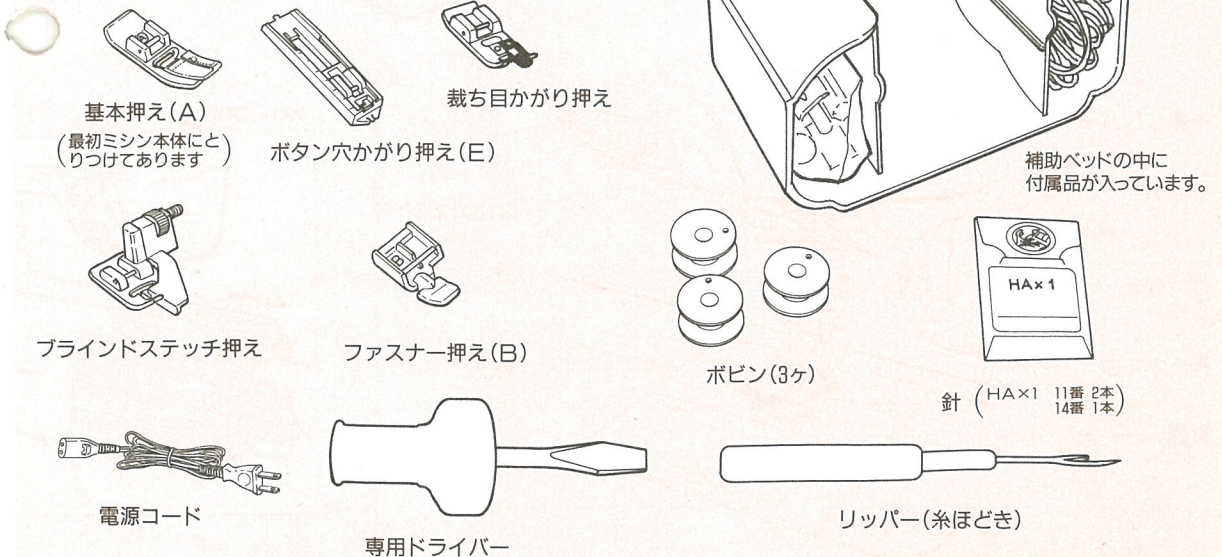
もくじ

安全にご使用していただくために	1	直線ぬい	9
各部のなまえ	3	返しぬい(ほつれ止め)	
フリーアームのセット		ジグザグぬい	10
主なはたらき	4	ボタン穴かがりぬい	10
下糸の準備	5	芯入りボタン穴かがりぬい	11
下糸巻きの糸のかけ方		ファスナーつけ	11
ポビンを内かまに入れるには		裁ち目かがりぬい	12
上糸のかけ方	6	伸縮強化ぬい	12
針自動糸通し		まつりぬい	12
下糸の引きあげ方		突き合わせぬい	13
押えのとりかえ方	7	ランプの交換	13
針について	7	ミシンの手入れ(掃除)	13
針の交換、針の選び方、調べ方		別売品のご紹介	14
と各模様の関係	7	故障かな…というときは	裏表紙
糸調子の合わせ方	8	アフターサービスと保証	裏表紙
各模様の最適なぬい目の長さや調節範囲	8		
布地・ミシン糸・ミシン針の関係と合わせ方	8		

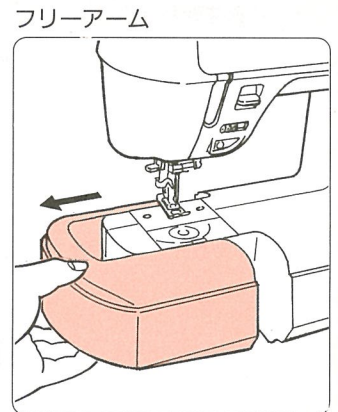
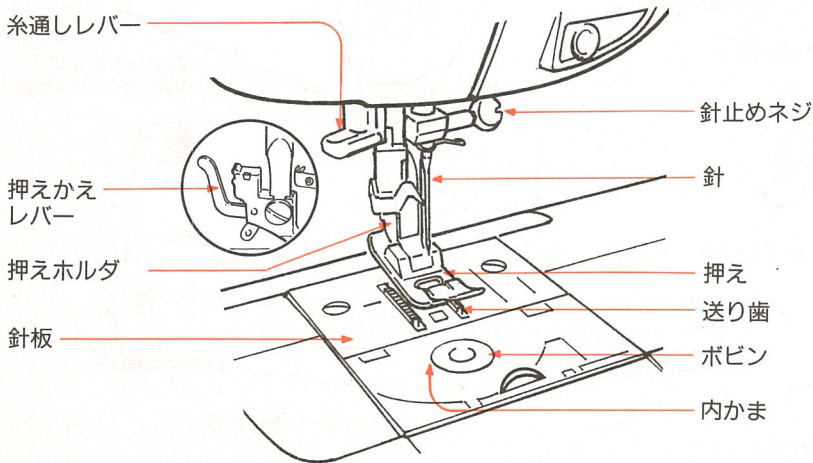
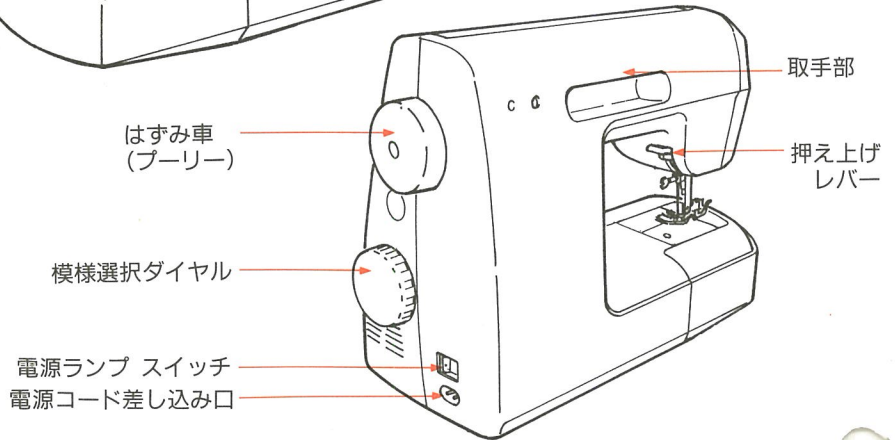
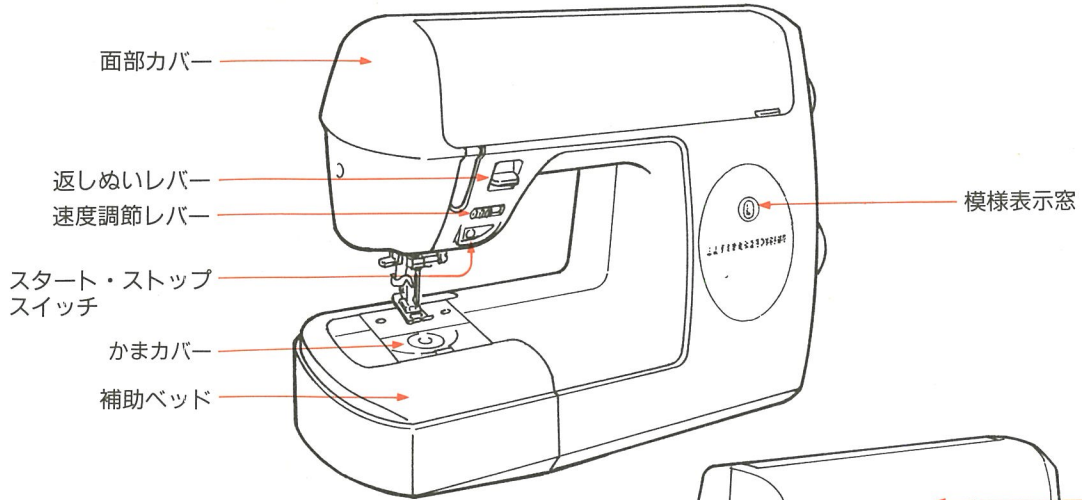
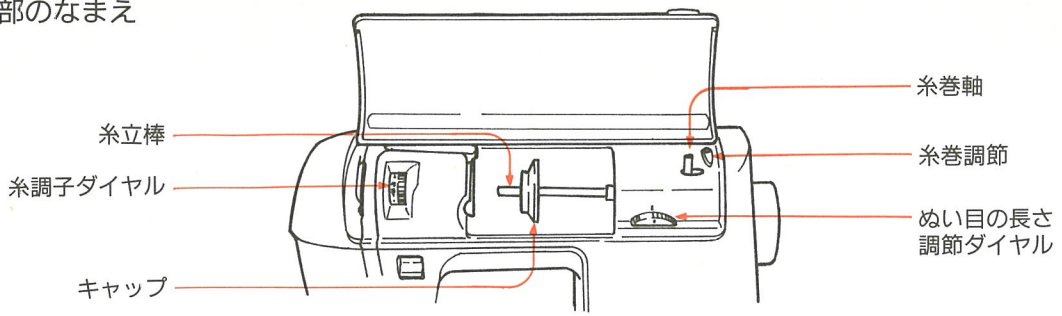
■仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅384×高さ292×奥行166(mm)
重量	6.6kg
定格電圧/消費電力	100V/70W 50/60Hz
ランプ消費電力	100V/15W

■付属品

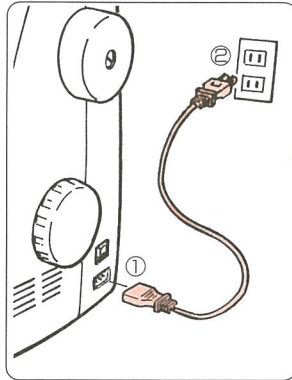


■各部のなまえ



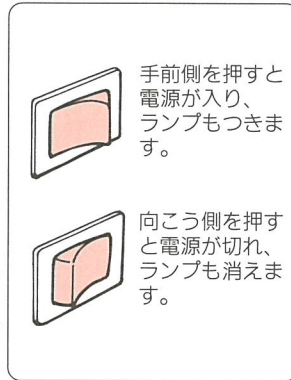
■主な はたらき

電源(コードのさし込み)



- ①電源コードのプラグをミシンの差し込み口へ入れます。
- ②コンセントプラグを室内コンセントに差し込みます。

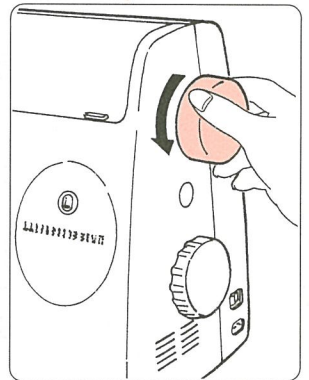
電源ランプ スイッチ



手前側を押すと電源が入り、ランプもつきます。

向こう側を押すと電源が切れ、ランプも消えます。

はずみ車



はずみ車を回すと針が上下します。
はずみ車は、必ず手前に回してください。

模様の種類

左基線	中基線	伸縮地用	まったりぬい	伸縮地用
直線ぬい	伸縮地用	直線ぬい	まったりぬい	伸縮地用

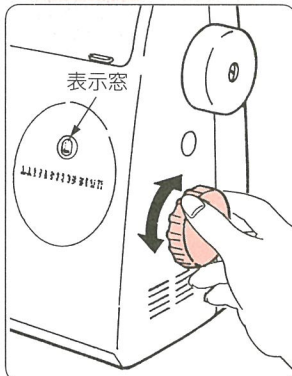
(小)	(中)	(大)	三点ジグザグ	スカーラップ
ジグザグ	ジグザグ	ジグザグ	ジグザグ	スカーラップ

かがり	バッチワーク	伸縮強化ぬい	ボタンの穴かがり
かがり	バッチワーク	伸縮強化ぬい	ボタンの穴かがり



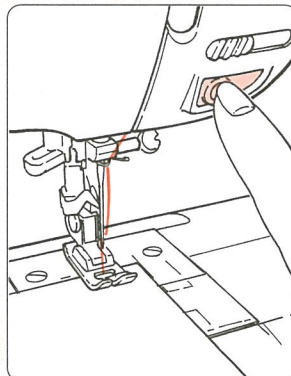
伸縮素材(ニット、ジャージ地など)に適したぬい目(模様)です。

模様選択ダイヤルと表示窓



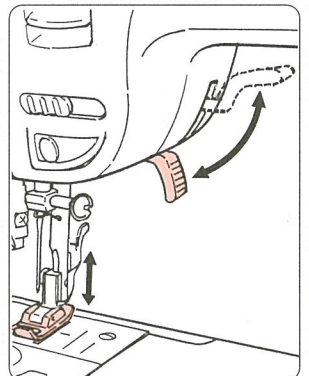
模様選択ダイヤルを回し、表示窓に出した模様がぬえます。

スタート・ストップスイッチ



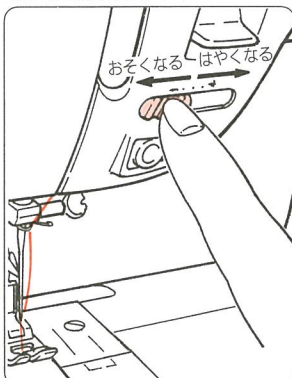
ミシンをスタートさせます。再度押すとストップします。

押え上げレバー



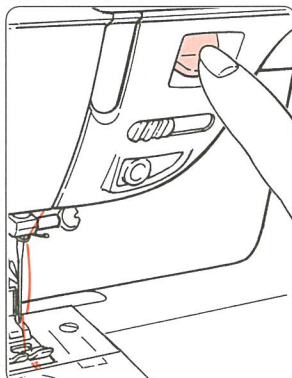
上にあげると押えがあがります。下へさげると押えはさがります。

ぬい速度調節レバー



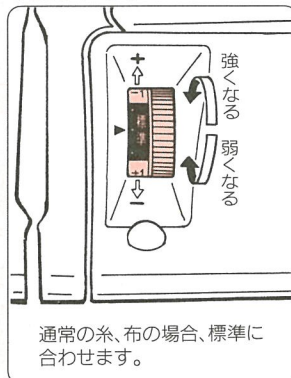
ぬい速度を調節します。

返しぬいレバー



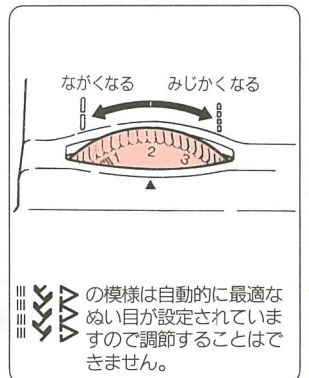
ぬい始め、ぬい終わりにレバーを押すと返しぬいができます。

糸調子ダイヤル



上に回すと上糸調子が強くなり、下に回すと弱くなります。

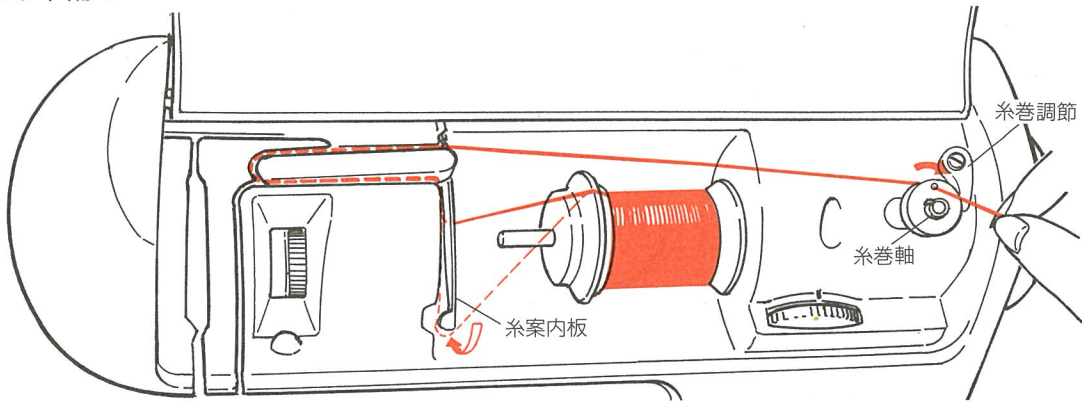
ぬい目の長さ調節ダイヤル



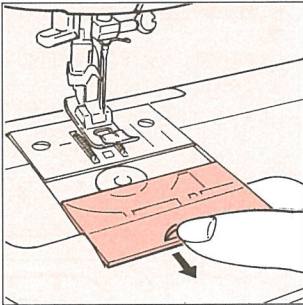
数字が小さくなるとこまかく、大きくなると荒くなります。

の模様は自動的に最適なぬい目が設定されていますので調節することはできません。

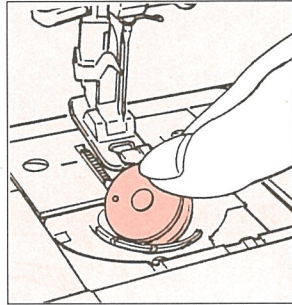
■下糸の準備 (下糸巻き糸のかけ方)



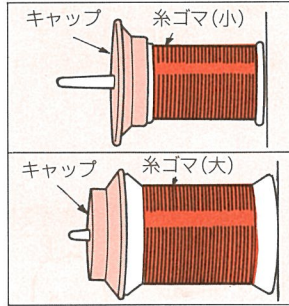
1 かまカバーを開けます



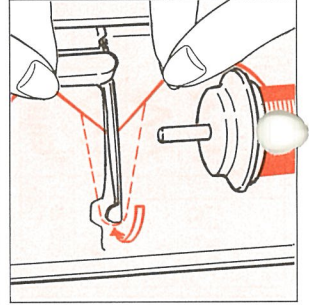
2 ボビンをとり出します



3 糸ゴマをセットします



4 糸案内板に入れます

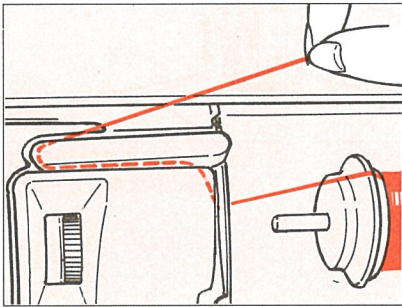


注意 ボビンを出し入れするときは必ず電源スイッチを切って下さい。

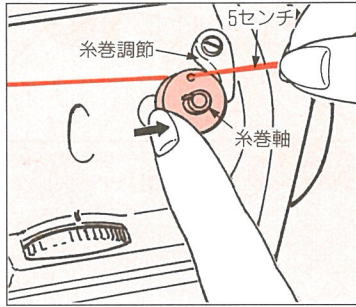
糸ゴマの外周に応じてキャップの裏表をかえてとりつけます。

手前から向こう側に入れます。

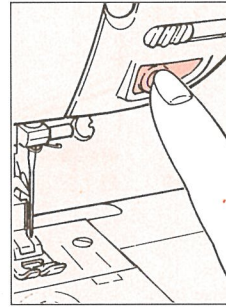
5 ミゾを通してUターンさせます



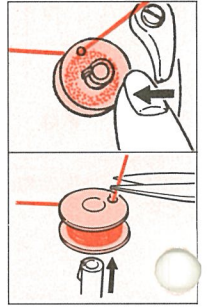
6 ボビンを糸巻軸にセットし糸巻調節へ押しつけます



7 スタートさせます



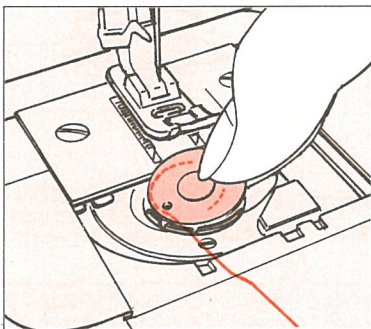
8 ボビンを左側へもどします



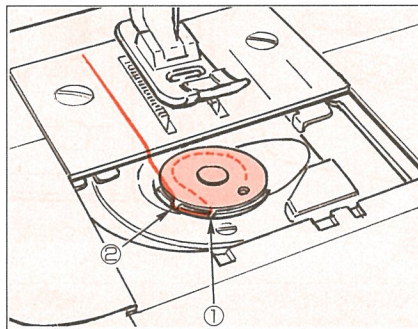
巻き終わったら再度スタート・ストップスイッチを押します。

余分な糸を切りボビンを取り出します。

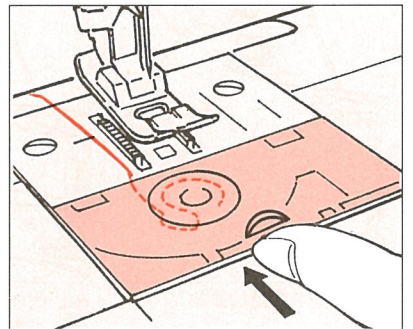
9 内かまに入れます



10 内かまに糸をかけます



11 かまカバーを閉じます



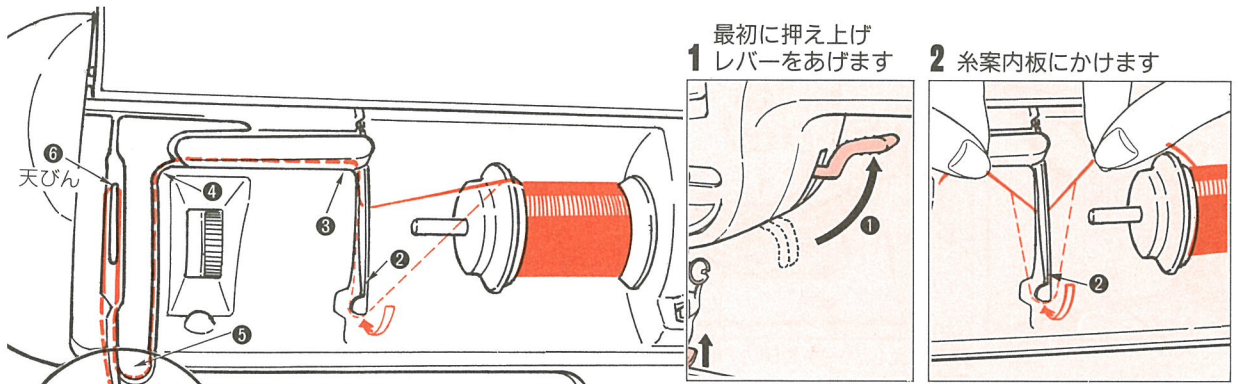
ボビンの糸の巻き方向をまちがわないように!

①に糸をかけ ②のミゾの上のせ後ろへもって行きます。

■上糸のかけ方



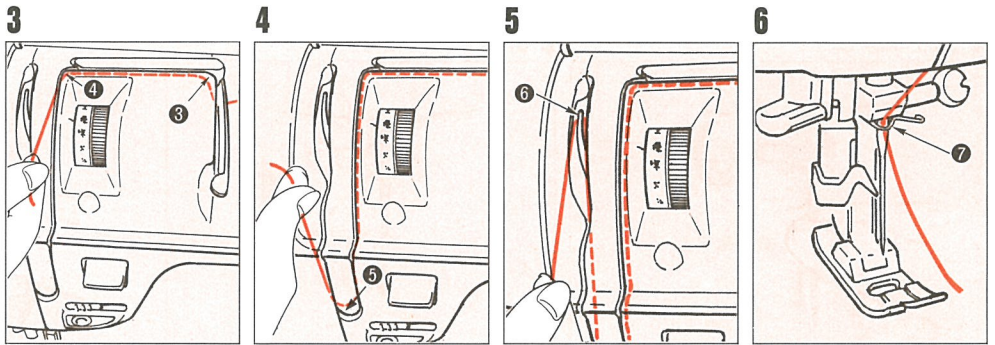
糸かけや糸を通すときは必ず電源スイッチを切ってください。



最初に押え上げ
1 レバーをあげます

2 糸案内板にかけます

押えをあげると糸調子 手前から向こう側へ入れます。皿が開きます。



3 4 から下へおろします。5 から上にもって行きます。6 天びんにかけて、下へもって行きます。7 は右側からかけます。

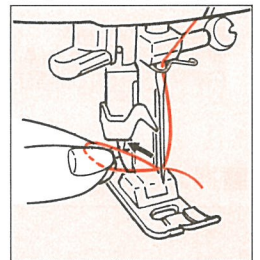
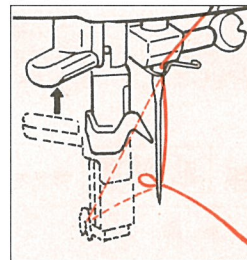
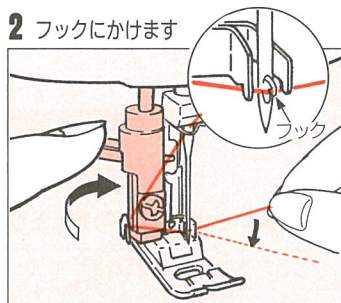
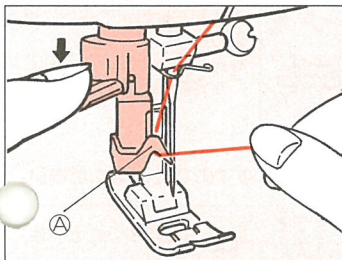
針自動糸通し

1 押えをさげ糸通しレバーをさげます

2 フックにかけます

3 糸通しレバーをあげます

4 糸をひき出します



糸通しレバーを下げてⒶに糸をかけます。

糸通しレバーをいっぱいまで下げてから矢印の方向に止まるまで回転させ糸をフックの下へ持っていきます。

糸通しレバーを戻すと、糸は針穴に通ります。

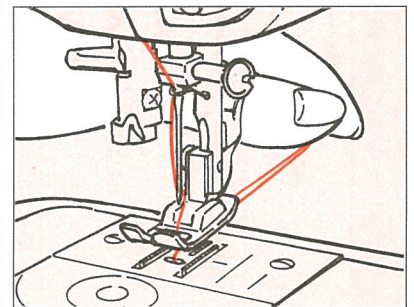
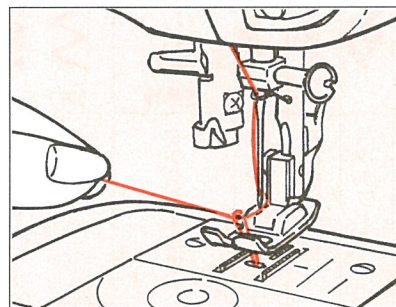
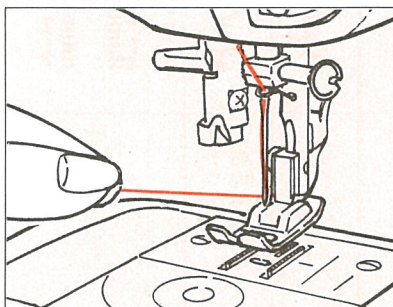
通した糸を針穴から10センチぐらい引き出します。

下糸の引きあげ方

1 上糸を軽くもちます

2 はずみ車を手前に回します

3 上・下糸を10センチ出します



針が上下して下糸を引き出します。

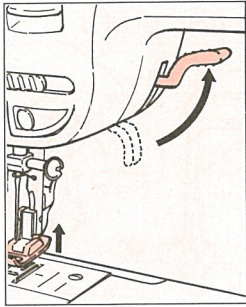
上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

■押えのとりかえ方

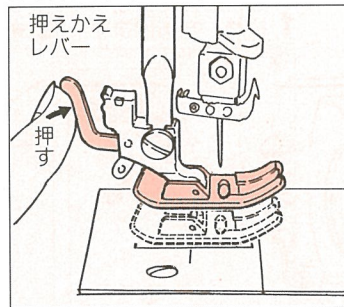


押えや針を交換するときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 押えを上げます

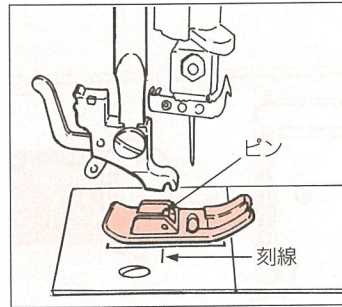


2 押えをはずします

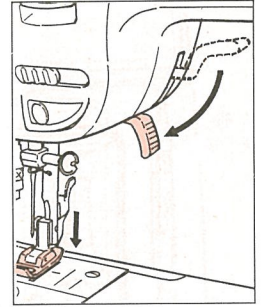


押えかえレバーを矢印の方向に押しします。

3 押えのピンと刻線を合わせます



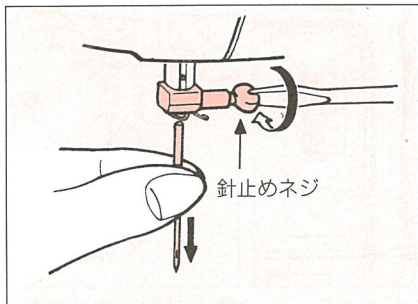
4 押えを下げます



押え上げレバーを下げると押えはセットされます。

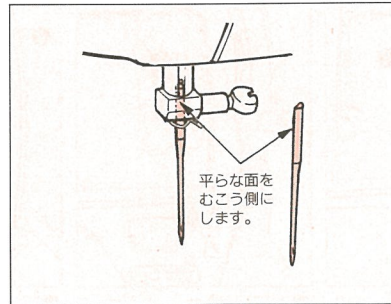
■針について

1 針の はずし方

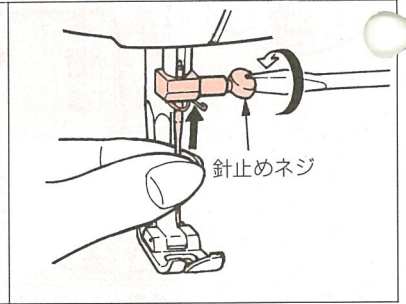


針を最上部にあげ針止めネジをゆるめます。

2 針の とりつけ方



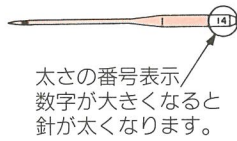
針の平らな面をむこう側にして上方へ当たるまで差しこみます。



ドライバーで針止めネジをかたくしめます。

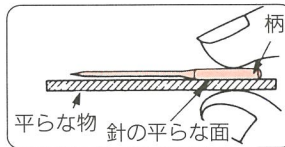
● 針の選び方

針をお求めの際は家庭用ミシン針のHA×1またはHA×ISP(ニット針)を指定します。



太さの番号表示
数字が大きくなると針が太くなります。

● 針の調べ方



すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないでください。

■押えと各模様の関係

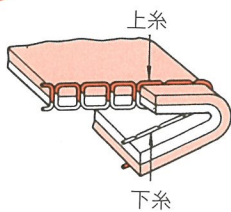


押えをまちがえますと針がぶつかり折れたり曲ったりしますのでご注意ください。

押え	基本 押え							ファスナー押え	裁ち目かがり押え	ブラインドステッチ押え	ボタン穴かがり押え		
	押え記号A							押え記号B			押え記号E		
模様	左基線	中基線	(小)	(中)	(大)			左基線	(大)				
主な用途	直線ぬい	伸縮地用直線ぬい	ジグザグぬい	三点ジグザグ	裁ち目かがり	パッチワーク	伸縮強化ぬい	模様ぬい(スカラップ)	ファスナーつけ	裁ち目かがり (オーバーロック)	ブラインドステッチ (まつりぬい)	伸縮地用ブラインド ステッチ	ボタン穴かがり

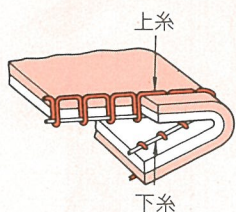
■糸調子の合わせ方

○ 正しい糸調子

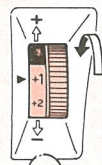


上糸と下糸のからみが
布の中心にくるのが
正しい糸調子です。

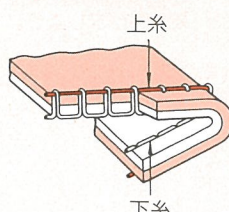
✕ 上糸の調子が弱いとき



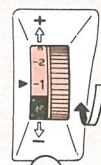
糸調子ダイヤル目盛の
数字を大きくします。



✕ 上糸の調子が強いとき



糸調子ダイヤル目盛の
数字を小さくします。



■各模様の最適なぬい目の長さ調節範囲

模 様	直線	伸縮地用直線	ジグザグ			ブラインド		三点ジグザグ	スーパー模様	スカラップ	ボタン穴かがり
最適範囲	2~2.5	2.5	1	1.4	2	2	1.5	1	自動	0.5	0.4~0.6
調節可能範囲	0~4	0~2.5	0~4			0~4		0~4	自動的に最適なぬい目の長さが設定されていますので調節できません。	0~4	0~4
調節例 (0.5~4)											

*伸縮地用直線()のぬい目の長さの最大は2.5です。

■布地・ミシン糸・ミシン針の関係とミシンの合わせ方の目安

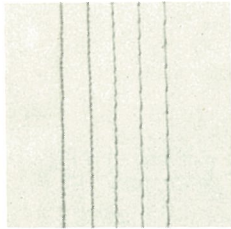
*糸調子について……

ほとんどの普通地ぬいは **標準** の範囲でぬえるようにセットしています。ジョーゼットやデニムなどの薄地、厚地は試しぬいをして糸調子を合せてください。

	布地	ミシン糸	ミシン針	ぬい目の長さ		糸調子の目安
				直線ぬい	ジグザグぬい	
薄地ぬい 	ローン	綿ミシン糸 80~100番	(9番)	1~3	1~4	
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番			
	トリコット	化繊ミシン糸 60~100番	ニット針 11番			
	ウール・化繊布	絹ミシン糸 80番 化繊ミシン糸 60~100番	11番			
普通地ぬい 	普通木綿・化繊布	綿糸 50~80番 化繊ミシン糸 50~60番	11~14番	1.5~3	0.5~4	
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番			
	一般ウール・化繊服地		11~14番			
厚地ぬい 	デニム	綿糸 30~50番 化繊ミシン糸 30~50番	14~16番	2~4	0.5~4	
	ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	11~14番			
	コート地	絹ミシン糸 50番	11~14番			

*ニット針(HA×1sp)は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

■直線ぬい



直線ぬいはぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。

⚠️注意

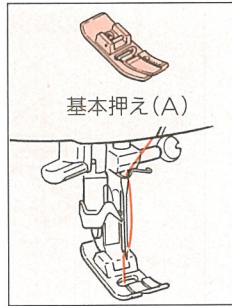
押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 直線模様を選びます

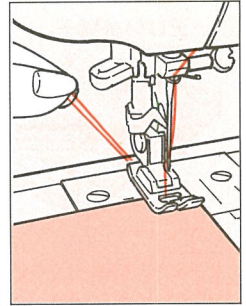


3種類の直線ぬいから目的に合ったものをお選びください。

2 基本押え(A)をとりつけます

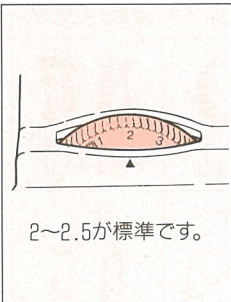


3 布地を入れ押えをさげます



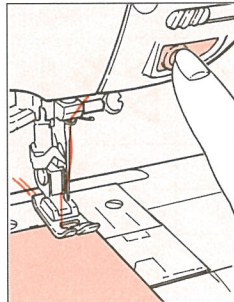
布地を押えの下におきぬい始める位置に針を落とします。上下糸をそろえて押えをさげます。

4 ぬい目の長さを決めます



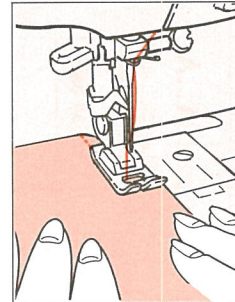
ぬい目の長さ調節ダイヤルを回します。

5 スタートさせます



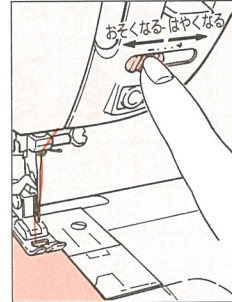
スタート・ストップスイッチを押します。

6 布地に軽く手をそえます



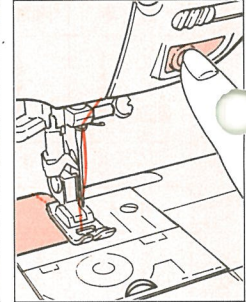
ぬっている間は布地をむりに引っばらないようにします。

7 ぬい速度を調節します



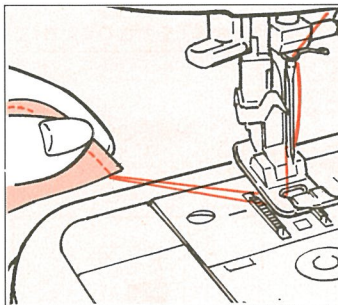
右にすると はやくなり 左にすると おそくなります。

8 ストップさせます



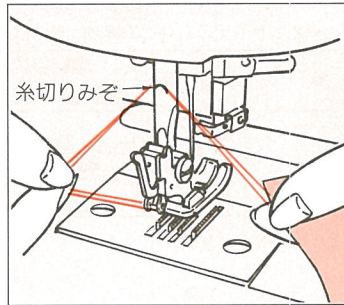
スタート・ストップスイッチを押します。

9 押えをあげて布地をとり出します



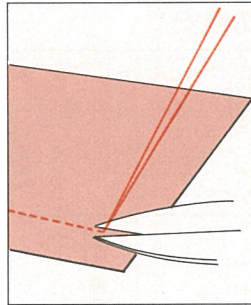
針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。

10 糸を切ります



上・下糸をそろえて10センチくらい引き出し押え棒の裏側の糸切りみぞで糸を切ります。

11 布地の裏で糸を結びます



布地の裏側に上糸を引き出し上糸と下糸を結び 結び目のさわで糸を切ります。

伸縮地用直線ぬいについて

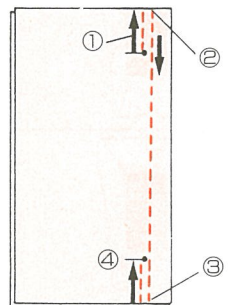


ぬい目が伸縮しますのでニット、ジャージー地などの直線ぬいとして使用できます。

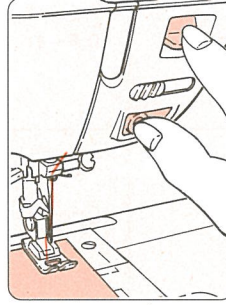
ぬい目の長さの最大は2.5です。

■返しぬい

(ほつれ止め)

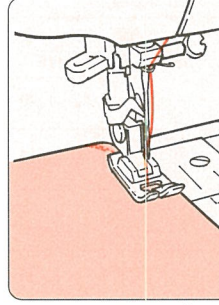


①スタート・ストップスイッチと返しぬいレバーを同時に押します



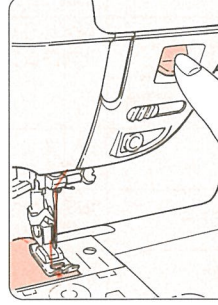
スタート・ストップスイッチの指はすぐにはなします。返しぬいする長さまで返しぬいレバーを押します。

②指をはなすと直線ぬいをします

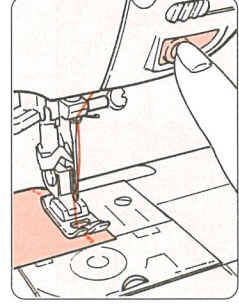


返しぬいレバーから指をはなすと直線ぬいになります。

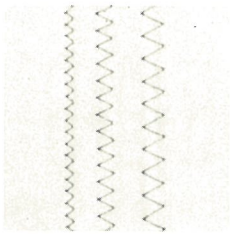
③返しぬいをします



④ストップさせます



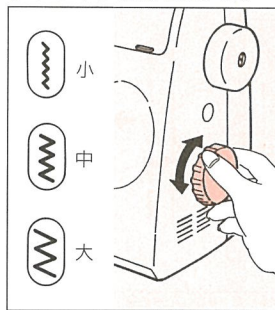
■ジグザグぬい



⚠️ 注意

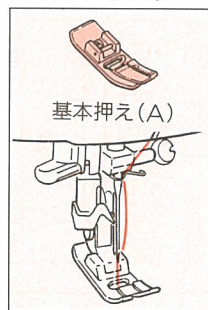
押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 ジグザグ模様を選びます



3種類のうち お好みの振り幅模様に合わせて。

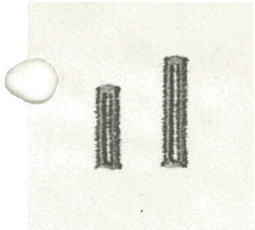
2 基本押え(A)をとりつけます



●ジグザグの振り幅とぬい目の長さの関係

ジグザグ模様	振り幅	ぬい目の長さの調節
	小 1.5	0.5 ~ 4
	中 3.3	0.5 ~ 4
	大 5	0.5 ~ 4

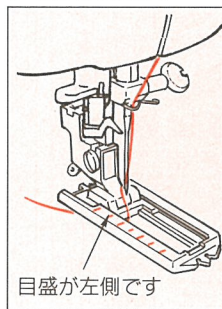
■ボタン穴かがり



⚠️ 注意

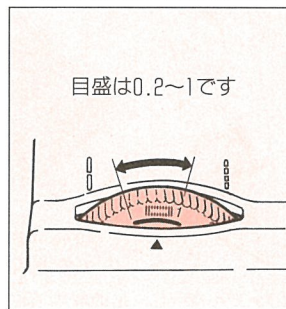
押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 ボタン穴かがり押え(E)をとりつけます



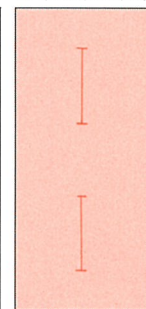
目盛が左側です

2 ぬい目の長さを合わせます

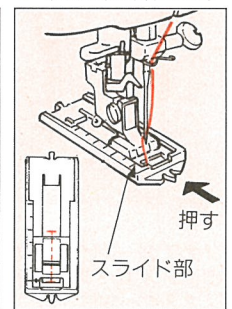


目盛は0.2~1です

3 ボタン径を測り布地に印をつけます

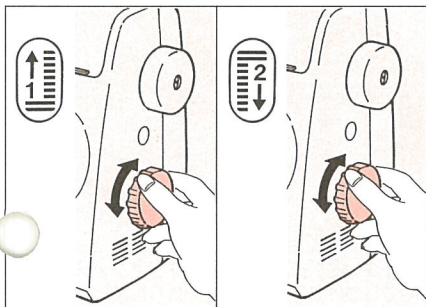


4 スライド部を押して布地の印に合わせます



スライド部
押す

5 ボタン穴かがり模様を下記順序を選んでぬいます



左右のぬい目の長さが合わないときの調整方法

⚠️ 注意

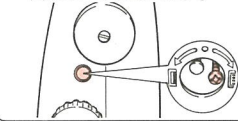
ぬい目を調整するときは電源スイッチを切ってください。

1. 調整するときは

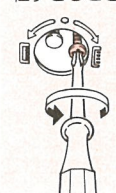


の模様を選びます。

2. はすみ車の下の調整穴のキャップをはずして、ぬい目の状態に合わせて調整します。



右側が
粗すぎるとき

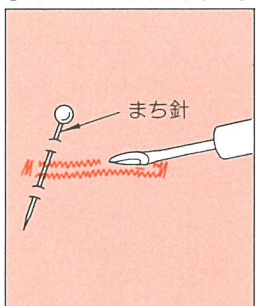


右側が
細かすぎるとき

調整時のご注意
ぬい目を見ながら少しづつ(45°ぐらい)回して試しぬいをし、合せてください。回しすぎるとネジが外れたりトラブルの原因となりますのでご注意ください。

左側のぬい目を基準として右側のぬい目を調整します。

6 ぬい終わったらリッパーで穴をあけます



まち針

切りすぎないようにまち針を使うと失敗しません。

ボタン穴かがりを失敗したとき

——失敗した場所により操作がちがいます——



をぬっている途中で失敗した場合

1. 押えを上げて糸をほどきます。
2. 模様選択ダイヤルで を選びます。
3. 10針ぐらい空転させます。
4. 模様選択ダイヤルで を選び最初からぬい直します。



をぬっている途中で失敗した場合

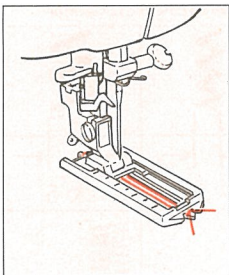
1. 押えを上げて糸をほどきます。
2. 模様選択ダイヤルで を選び最初からぬい直します。

■芯入りボタン穴かがり

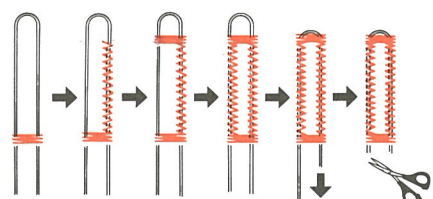
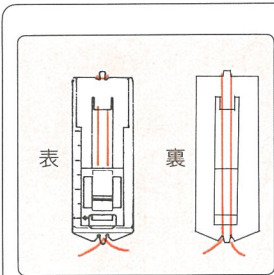
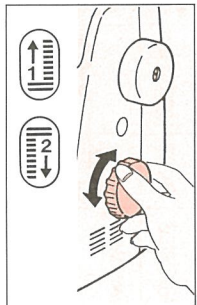
1 縫いの順に模様を選びます。



押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。



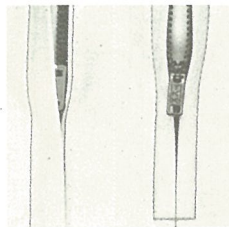
芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを 방지、丈夫なボタン穴かがりができます。芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。



引く 余部な芯糸を切る

芯糸入りのボタン穴かがりをするとき、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

■ファスナーつけ



ファスナーつけは一般的に脇明きファスナーつけとつき合わせファスナーつけがあります。

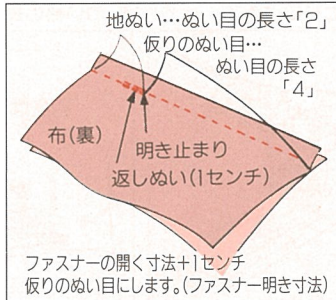
脇明きファスナーつけ

1 左基線の直線を選びます



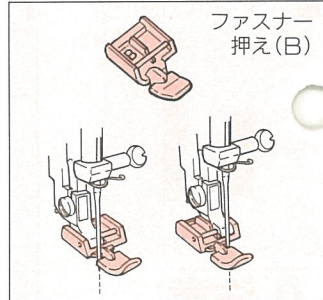
中基線はファスナー押えに針が当りますので必ず左基線を選んでください。

2 基本押え(A)を使い地ぬいと仮りのぬいをします



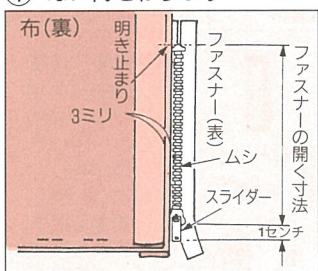
布地を中表に合わせて、地ぬいととりつけるファスナーの寸法を確かめて仮りのぬいをします。(ファスナー明き寸法)

3 ファスナー押え(B)をセットします



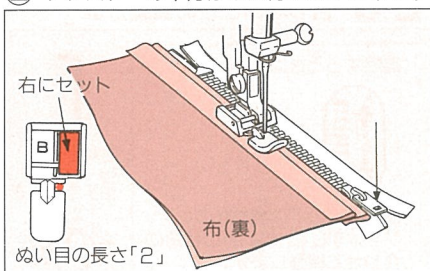
ファスナーの右側をぬうときは押えの左にセットします。左側をぬうときは押えの右にセットします。

① ぬい代をわります



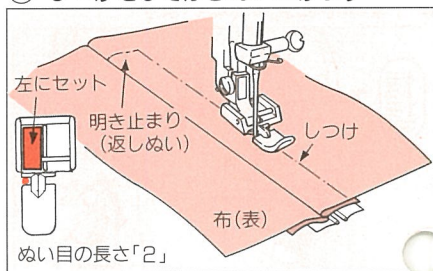
ぬい代をきちんとわり、後ろ布のぬい代を3ミリ出して、アイロンで折目をつけ折り山をムシのきわにあてます。

② ファスナーの下から上方にぬいつけます



押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダーのところは手前5センチでミシンを止め、スライダーを押えの向こう側へさげて端までぬいつけます。

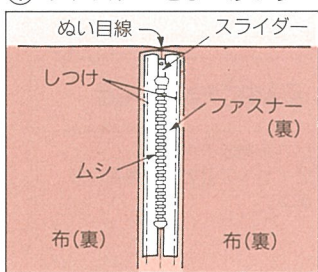
③ 上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます



スライダーを引きあげて、上布をファスナーの上にかぶせてしつけをします。明き止まりに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダーのところは仮のぬい目をほどいてスライダーをさげ、残りをぬいます。

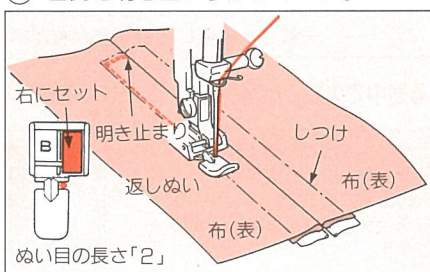
つき合わせファスナーつけ

① ファスナーをしつけます



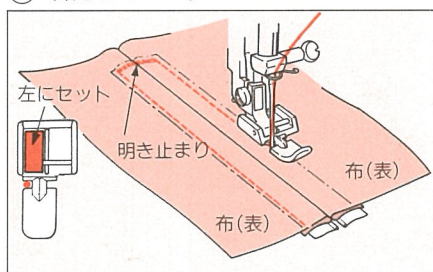
ぬい代をわり、ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

② 左側を明き止まりからぬいます



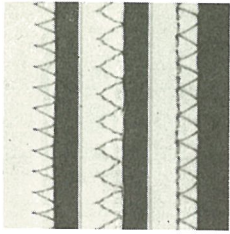
ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

③ 右側をぬいます



ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどきます。

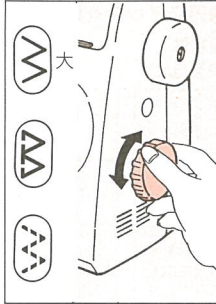
■裁ち目かがり



⚠️ 注意

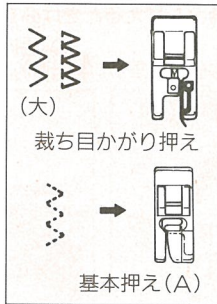
押えを交換するときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 模様を選びます



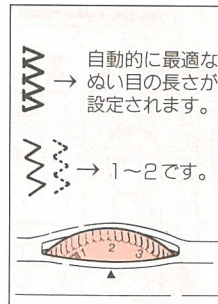
3種類のうち お好みの模様を合わせます。

2 押えをかえます

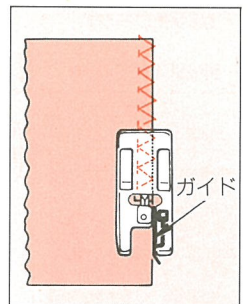


※三点ジグザグぬい目は必ず基本押え(A)をお使いください。

3 ぬい目の長さを決めます



4 裁ち目かがり押え(C)を使う場合



布端をガイドにあててぬいめます。

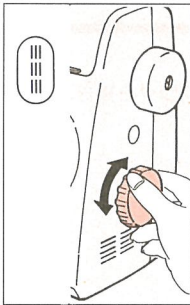
■伸縮強化ぬい (ストレッチステッチ)

伸縮性のある布地や、力がかってほつれやすい布などに使うとぬい目がしっかりします。

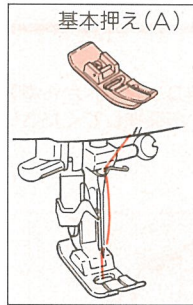
⚠️ 注意

押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

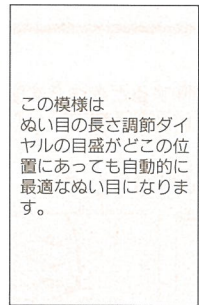
1 模様を選びます



2 押えをかえます

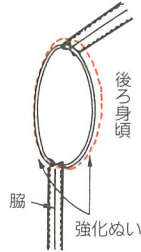


3 ぬい目の長さは自動的に決まります



■使用例

- 袖つけ
後ろ袖や、袖下に力がかりほつれやすいところにあります。



- よく使用するポケットつけ



- 袋ものにとってつけ

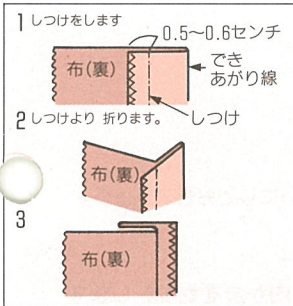


■まつりぬい (ブラインド ステッチ)

⚠️ 注意

押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

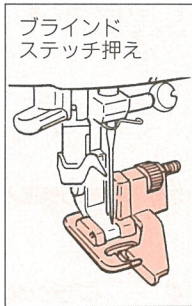
1 裁ち目かがりをして布地を折ります



2 模様を選びます

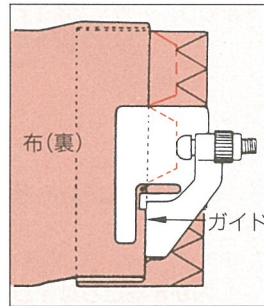


3 押えをかえます



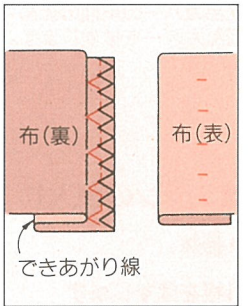
※ぬい目の長さ は2~4、 は1.5~3。

4 押えのガイドにあててぬいめます



押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいめます。

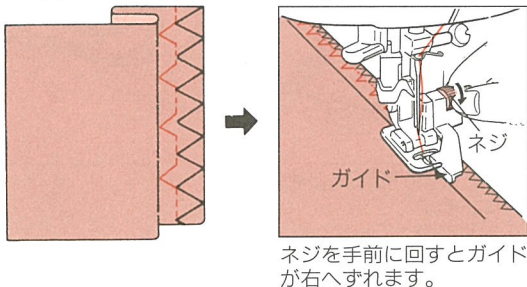
5 布地を折りかえします



ぬい終わりましたら、布地を折りかえしアイロンでとのえます。

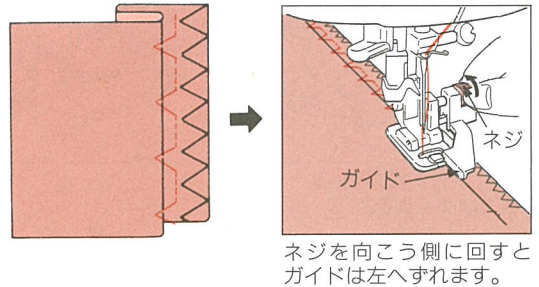
●ブラインド ステッチ押えのガイド調節方法

- 折り山にぬい目がかからない場合



ネジを手前に回すとガイドが右へずれます。

- 折り山にぬい目がかかりすぎた場合



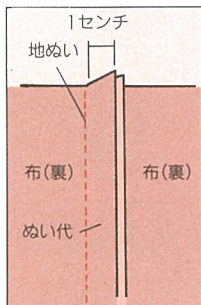
ネジを向こう側に回すとガイドは左へずれます。

■突き合わせぬい (パッチワーク)



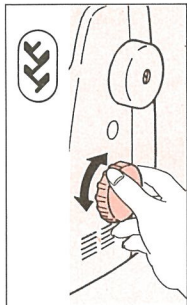
押えを替えるときは必ず電源スイッチを切ってください。

1 地ぬいをします

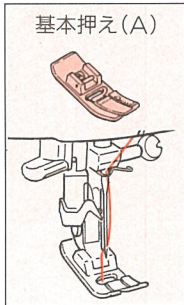


2枚の布地に地ぬいをします。

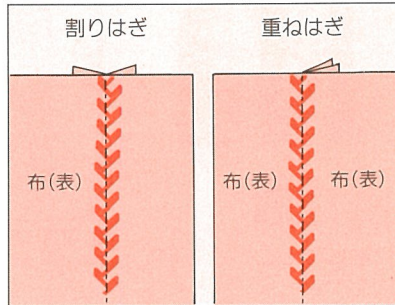
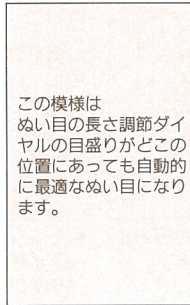
2 模様を選びます



3 押えを確かめます



4 ぬい目の長さは自動的に決まります

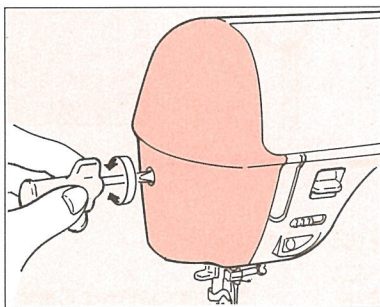


両方の布地に模様があたがるようにぬいます。

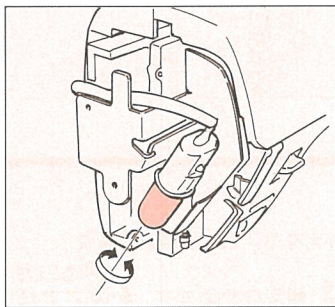


- ランプの交換や掃除するときは必ず室内コンセントから電源プラグを抜き、電源を切ってください。
- ランプが熱いときは冷えるまで待ってから交換してください。

■ランプの交換 (面部カバーのとりはずし方)



面部カバーの前面の止めネジをまわし、面部カバーをはずします。



ランプをまわして、とりはずし、新しいランプをとりつけます。

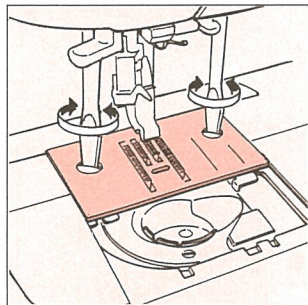
- ランプの消費電力は15Wです。
- ランプのお買い求めは、このミシンをお買い求めたきました販売店でお求めください。

■ミシンの手入れ

糸くずやほこりがたまりやすくと故障の原因となります。常にきれいにしておきましょう。

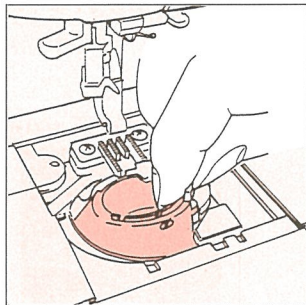
●掃除

針板をはずします

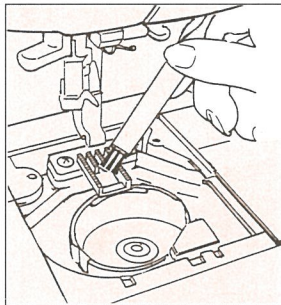


針や押えをはずしてから針板をはずします。

内かまをとりはずします

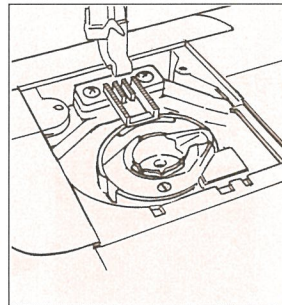


ブラシなどを使います



送り歯とかまの中と周辺をきれいにします。たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれになります。

内かまをセットします



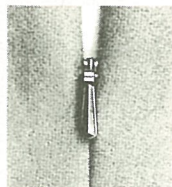
別売品のご紹介



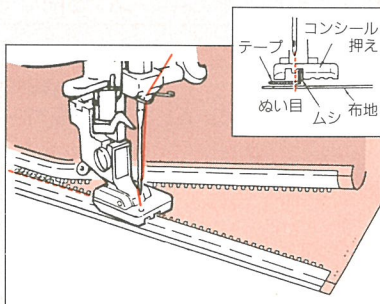
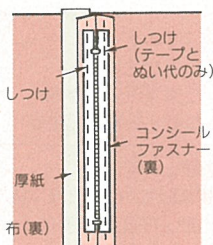
注意

押えの交換や送り歯カバー取り付けのときは電源スイッチを切ってください。

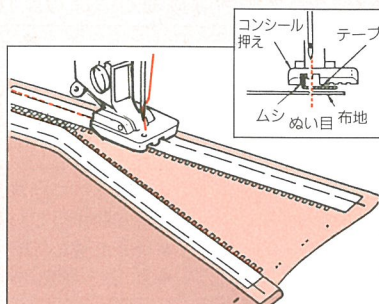
● コンシール押え



ファスナーのぬい目が布地の表に出ないので、つき合わせの状態であきの始末ができます。

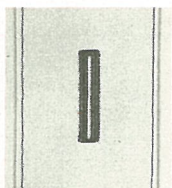
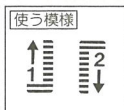


一方のぬいしろをファスナーのムシを押えのみぞに合わせ、指でムシを立てるようにして、ムシのきわにあき止まりよりミシンをかけます。



もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分はぬいしろにぬいつけられずに残ります。)

● 手動BH押え

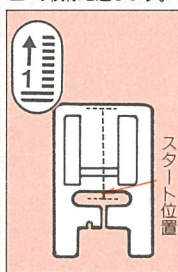
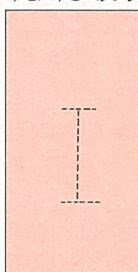


厚地の短冊あきや台紗の段部の穴かきをする場合に用います。

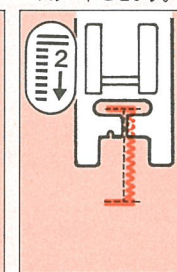
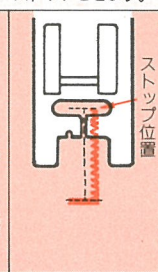
ボタン径を測り
布地に印をつけます。

↑ ↓ の模様を選びます。
印の最後で
ストップさせます。

↑ ↓ の模様を選び
スタートさせます。
最初の位置に戻ったら
ストップさせます。

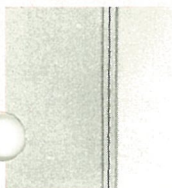
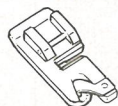


布地の印に合わせて
スタートさせます。

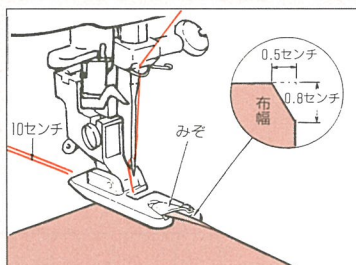


返しぬいをして
終了です。

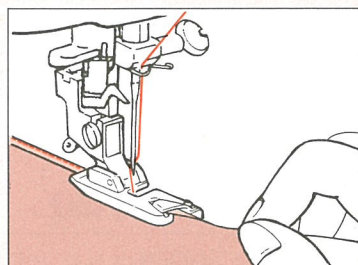
● 三ツ巻き押え



布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

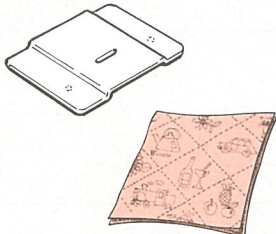


布地を巻きこみやすくするため角を少し切り、押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから針をおろして押えをさげます。

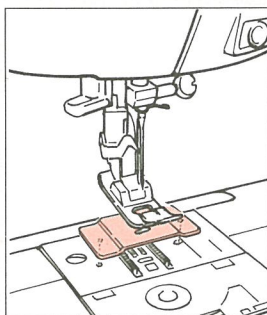


上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわし、正しく巻きこまれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量が入られるように入れてぬいます。

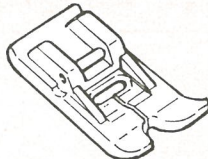
● 送り歯カバー



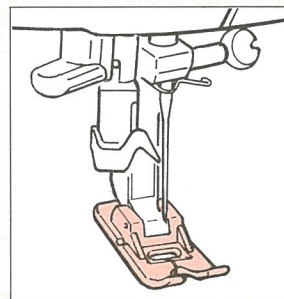
キルト芯を入れてオリジナルキルトやフリー刺しゅうに用います。



● テフロン押え



テフロンはすべりが良いため送りにくい素材(ジャージ、ビニールクロス、皮など)に適します。また、模様ステッチには模様くずれがなく、きれいに仕上がります。



■故障かな…というときは

下記のような場合は故障ではありません。サービスをお申しつける前にもう一度お確かめください。

現象	原因(理由)	処置方法	ページ
布が送らない	<ul style="list-style-type: none"> ● ミシンが空転しているとき ● 送り(ぬい目の長さ)が「0」になっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸巻軸を左へもどします ● 送り「1~4」に合わせます 	5 8
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 針のとりつけ方が間違っているとき ● 針が曲がっているとき ● 押えと選んだ模様が合わないとき ● 針・糸・布地の関係が悪いとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しくとりつけます ● 新しい針にとりかえます ● 模様に合った押えを使います ● 布地に合った針・糸を使います 	7 7 7 8
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸のかけ方が間違っているとき ● 糸が必要以外の所へからんでいるとき ● 上糸の調子が強すぎる時 ● 針が曲がっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しくかけ直します ● 糸立棒、糸案内などからまわっていないか調べます ● 上糸調子を正しく直します ● 新しい針にとりかえます 	6 — 8 7
下糸が切れる ぬい目かとぶ	<ul style="list-style-type: none"> ● 針のつけ方が間違っているとき ● 針が曲がっているとき ● 糸のかけ方が間違っているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しくとりつけます ● 新しい針にとりかえます ● 正しくかけ直します 	7 7 6
回転が重く、音が高い	<ul style="list-style-type: none"> ● かまに糸くずがたまっているとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● かまを掃除します 	13
ぬいじわが出る	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸調子が強すぎる時 ● 布地と針と糸が合っていないとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸調子を合わせます ● 正しく合わせます 	8 8
スタートさせても ミシンが回らない	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸巻軸が糸巻状態になっている ● 針をかまの中に落としたままになっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 糸巻軸を左側へもどします ● 針をとりのぞきます 	5 —
糸通しができない	<ul style="list-style-type: none"> ● 針が上にあがっていないとき ● 針がとりつけるとき奥まで突き当たっていないとき ● 糸通しレバーをさげたまま(糸通し中)誤ってミシンを回してしまったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● はずみ車を回して、針を最上点にあげます ● 針を正しくとりつけます ● はずみ車を手でわずかに向こう側(ぬうときと反対)に回します 	6 7 —
模様ダイヤルが回らない場合		<ul style="list-style-type: none"> ● 押え上げレバーを上げ、はずみ車を手前に2~3回回してください 	—

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。ただしメイン基板は2年間です。
- 保証期間中でも有料になることもありますので、ご了承ください。(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

JUKI 株式会社
〒182 東京都調布市国領町8-2-1
☎ 03-3480-7112

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、下記、営業所へお問い合わせください。

北海道特販営業所 …… 〒060	札幌市中央区南五条東3-14-5	☎011(512)6895
東北特販営業所 …… 〒980	仙台市青葉区錦町1-1-2	☎022(261)7081
東京特販営業所 …… 〒136	東京都江東区亀戸1-32-8	☎03(5626)2371
大阪特販営業所 …… 〒530	大阪市北区曽根崎新地2-6-21	☎06(348)1351
広島特販営業所 …… 〒730	広島市中区富士見町4-22	☎082(246)7711
九州特販営業所 …… 〒812	福岡市博多区博多駅東1-9-5	☎092(474)4947
JUKI中部販売(株) …… 〒452	愛知県西春日井郡春日町大字落合字宮重町521	☎052(400)1234